

- いすゞ自動車、「フォワード」「エルガミオ」の燃料噴射装置に不具合があるとしてリコール 10年6月17日～17年3月20日に生産した8万5945台
インジェクタ取付ボルトの締付トルク指示が不適切なため、インジェクタガasketのシール性が不足しているものがある。その為、燃焼ガスが漏れてインジェクタ取付ボルトが緩み、振動が大きくなって当該ボルトが折損し、エンジンが停止して走行できなくなる恐れがある。
- スズキ、「アルト」「アルトラパン」「ワゴンR」「スペーシア」・マツダOEM「キャロル」「フレア」「フレアワゴン」の燃料タンクに不具合があるとしてリコール
燃料蒸発ガスホースの材料及び圧力調整弁の表面粗さが不適切な為、圧力調整弁が固着するものがある。そのため、そのまま使用を続けると、燃料タンクが負圧で変形。燃料レベルゲージが傾き、燃料計が実際の燃料残量より多く指示するため、燃料残量警告灯が点灯することなく予期せぬ燃料切れとなる恐れがある。
14年12月2日～19年4月4日に生産した76万9032台
- スズキ、「ハスラー」「アルトラパン」・マツダOEM「フレアクロスオーバー」のヘッドランプに不具合があるとしてリコール
ディスチャージ(HID)ヘッドランプの製造管理が不適切な為、ヘッドランプソケット内のパッキンに揮発性のシリコン化合物が残留しているものがある。そのため、残留物がランプの点灯熱で揮発し、HIDバルブとソケットの接点に付着して、接点で発生するアーク放電熱によって絶縁体の酸化シリコンが生成。導通不良となり、ヘッドランプが点灯できなくなる恐れがある。
13年12月13日～18年8月30日に生産した34万3877台
- ルノー・ジャポン、「ルーテシア」等計4車種のエンジンに不具合があるとしてリコール 13年5月10日～17年11月28日に生産した1万0210台
減速時のクランクケース内の内圧設計が不適切なため、減速時のシリンダー内圧がクランクケース内圧よりも低くなり、エンジンオイルを含んだブローバイガスが燃焼室に逆流することがある。その為、ピストンに多量のカーボンが堆積して剥離すると、排気バルブとバルブシート間に挟まり、高温の燃焼ガスが漏れ、排気バルブが溶損して、最悪の場合、走行中に警告灯が点灯し、エンジンの出力が低下する恐れがある。
- 三菱自動車、「デリカD:5」等計4車種の後輪ブレーキキャリパーに不具合があるとしてリコール
16年1月28日～同年5月27日に生産した7556台。交換修理用部品として出荷し、組付けられた車両が特定できない69個も対象
駐車ブレーキ駆動用シャフトの組み付けばらつきにより錆防止用の塗装が剥がれることがある。そのため、シール部からシャフト部に水が浸入すると、シャフトに錆が発生し、そのままの状態で使用を続けると、シャフトの錆がキャリパー内部まで進行しシャフトの回転が阻害され、駐車ブレーキの制動力が低下し、最悪の場合、駐車中の車両が動き出す恐れがある。